

僕は声を上げ続けます

【安保3・文書】は戦争をしないこと誓った戦後の日本のあるべきを根本的に變えるのです。

主義を投げ捨てるこれを闘議で  
決めてしまつ。暴走の人の話  
ではないです。防衛費を今後5  
年間で43兆円まで増やして米  
国や中国に次ぐ軍事大国にしよ  
うなど、多くの国民党は譲んで  
いないと思いますよ。

## ジャーナリスト、金平 茂紀さん

はその最前線にあります。先日、沖縄の与那国島に行つてきました。島には自衛隊のミサイル部隊が配備されつありました。取材のためにレンタカーを借りようとしたら、残り一台しかありませんでした。ほかの車はみんな工事関係者が使つているというのです。

島民の中には、自衛隊誘致に賛成でもミサイル部隊が配備されることは反対の人もいます。戦争になつたら真っ先に自

分たちが標的になることを分かっているのです。反対の声があるにかかわらず、問答無用で配備を進めるやり方は、あまりにも強引です。

こうした沖縄の現状をよそに、大手メディア幹部・OBが「安保3文書」改定に向けた有識者会議のメンバーとして参加していました。ジャーナリズムの人間として恥ずかしい限りです。メディアは公権力（政府）と常に緊張関係を持たなくてはいけ

般市民です。これ以上「殺すな」といふんだ。

僕は今年70歳になります。テレビと同じ年で、不完全ながらも戦後の民主主義の中でも生きてきた。戦争放棄をうたった日本国憲法によって守られてきた。それをないがしろにする政府の動きに強い危機感を覚えていました。

「戦争のやめる國」にしてから何らかの動きを黙ってみてはいかがでしょうか」と聞いたのです。

分たちが標的になることを分かっているのです。反対の声があるともかかわらず、問題無用で配備を進めるやり方は、あまりにも強引です。

じつは沖縄の現状をよそに、大手メディア幹部・OBが「安保3文書」改定に向けた有識者会議のメンバーとして参加していました。ジャーナリズムの人間として恥ずかしく限りです。メディアは公権力（政府）と常に緊張関係を持たなくてはいけない。僕の師であり、報道記者のキャスターを務めた筑紫哲也さんが生きていたら恥辱のあまり舌打ちしていただしそう。「何をやつらるんだ」と。

僕は昨年2度ウクライナに行き、日本の憲法の条の画直しを改めて実感しました。でも政府や

「殺す」だといふことです。これ以上「殺す」ことによって、「戦争放棄をうたった日本国憲法によって守られてきた。それをないがしろにする政府の動きに強い危機感を覚えています。

「戦争のやうな国」にしてしまひふらの動きを黙ってみて、じるだけでいいのか」と聞いた。い。おぬトレヒ番組でタモリさんが「新しい戦前になるのは」も語っていましたが話題を呼びました。「新しい戦前」にしないために必要なのは声を上げ続けることだと思っています。諦めたら終わりです。だからこそ僕は声を上げ続けます。

# 拡大軍事由岸

一部監禁は、心からイヤで起きている戦争を奇貨として「自分

(題記)  
写真  
宮下泰和